

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年5月8日

事業所名 ほっこりの里

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	88%	13%	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子によっては客室等空き室を使っている。 ・地域交流スペースや静養室を利用し、1人1人の人権を大切にしている。 ・地域交流スペースの部屋を活用して、部屋数は多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた環境を生かし、安心できる環境の中で、サービス提供を継続していきます。
	2	職員の配置数は適切である	88%	13%	<ul style="list-style-type: none"> ・各部屋1人は置くようにしている。 ・保育士、5年勤続の児童指導員2人と在籍。 ・車いすの利用者は居ないが、受け入れるとなった時、手すりやスロープがあり、設備が整っている。 ・日によって職員が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急遽の職員の休みを想定し、他事業より応援職員を配置するなど、あらかじめ取り決めをし、サービスの質を落とすことのない体制づくりを行います。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープ、エレベーター設置している。 ・パーテーション、マットレス、机、椅子を用いそれぞれ児童の居場所をつくり設置する。 ・1Fフロア1面バリアフリーで外から中へ入る際もバリアフリーである。 ・広い部屋や静かで狭い部屋とその子に合わせた空間を作ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの増加に伴い、引き続き、受け入れ前より職員間で話し合い、環境設定に力を入れます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・主に活動する所に、手洗い、手拭きを用意している。 ・床の物を口に入れる、異食などを防ぐ感染症や事故を防ぐ為に送迎後、出勤後に掃除環境設定をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や食中毒のリスクを、定期的に職員間で再確認していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・話を進める時間がなかなかとれない。 ・月に1度の会議、朝のミーティングの中で記録も残し、行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日程を分けるなど、全職員が参加できる状態をつくっていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の改善策は職員間で共有しながら作成しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表の意味、理解を職員間で共有していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	75%	25%	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を写真やビデオにとりHPやインスタに上げている。 ・ほっこりの里ホームページにて公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開している旨を、保護者に周知いたします。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	88%	13%	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援員に訪問してもらい、利用者や職員の様子を見て頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度、貝塚市にて、施設連絡会が発足するので、外部の見学、評価を受ける仕組みもできればと思います。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	88%	13%	・研修の機会を更に確保していきたい。長期休暇を除き。 ・張り紙があり、研修の機会を頂いている。	・研修の情報をより多く取り入れていきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・支援計画はわくわくを得られることを大切にしています。	・より専門性を高め、お子さんの発達に合わせた計画をたてていきます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	・絵カードやジェスチャーでその子にあった伝え方ができるようにしている。	・正確にお子さんの状況を把握できるようにしていきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	・個別支援計画書で、内容を選択し、支援方法を記載している。また作成するにあたり、モニタリングで保護者と内容の理解を深めている。	・令和6年度より、制度改正により、発達支援の5領域も組み込み、内容を高めていきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	・職員全員が、個別支援計画に目を通し、支援を行っている。	・支援前に再確認することも大切にします。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	88%	13%	・話し合いに参加できない場合、プリント等で案を出し合っている。 ・保育士の知識やレクリエーションが好きな職員から様々な案を頂いている。 ・保育士を中心に活動表を作成している。クッキングなど、全体で話し合い決めている。	・他事業の情報や活動内容にもアンテナをはり、より充実したプログラムにしています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	88%	13%	・その日の児童の能力や様子、季節や時期等考慮している。 ・利用者の様子から得意なことをみつけ、それをプログラムに入れ、楽しんでもらう。	・お子さんの発達に合わせた、小さな変化も大切にしています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・その日の児童の能力や様子、季節や時期等考慮している。 ・体調や気分に合わせて活動内容を変えている。	・令和6年度より、活動プログラムの公開も行っていきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	13%	・その日の参加職員に共通認識するよう伝達している。 ・朝礼を行い、部屋割り、前日に起こったことを確認し、対策を考えて職員全体で周知している。	・打ち合わせの段階で、リスクヘッジにも力を入れてます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	63%	38%	・支援終了後の職員が少ない。気づいた点等は、連絡ノートで伝えている。	・気付きでは、良い所、強みに焦点をあてることを念頭に置いています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・気付いたことは個人ノートに書いている。 ・連絡ノート、朝礼で気付いたことを教え合い、支援日誌に記載している。	・支援記録においても強みの成長、次の支援の改善を記載しています。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	・期間内に保護者と面談を行い、振り返りも入れ見直している。	・モニタリング時に必要な助言ができるように、専門性やコミュニケーションを高めていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	88%	13%	・お子さんに合わせた職員の参画を大切にしています。	・日頃より、相談支援事業所との繋がりを大切にしていきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・事業所から積極的に連携をとることを意識しております。	・日頃からの関係性を大切に、関係機関全体で、お子さんの支援を円滑に進めていきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	88%	13%	・該当する利用者が居ない。	・医療的ケアを必要とするお子さんを受け入れる場合は、関係機関と連携をとり支援します。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	63%	38%	・該当する利用者が居ない。	・医療的ケアを必要とするお子さんを受け入れる場合は、関係機関と連携をとり支援します。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・児童担当の先生と受け渡しの時その日の様子をうかがう。 ・幼稚園の先生に訪問してもらい、幼稚園での様子を聞き、施設内での様子を見てもらっている。	・縦横の連携を大切に、お子さんの支援を円滑に進める体制づくりを地域全体で行っていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	88%	13%	・学校での支援方法等、聴けていない。先生と面談する機会があればと思う。	・現在、学校機関との連携は、相談支援員を通す決まりとなっておりますが、直接やりとりができるようになればと思います。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	38%	63%	・相談支援員に訪問してもらい、情報交換やアドバイスを頂くが、研修は行っていない。	・児童発達支援センターや児童発達支援事業など、専門機関との連携を日常的に行えるようにしていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	・公園に行って、一緒に遊べるよう手だてをしている。 ・地域の子どもに来てもらい、遊びの中で関わりを持つことができている。	・地域交流スペースを設けている為、今後地域のお子さんを対象に学習室を開放するなど、より多くの交流の機会を持てるようにします。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	38%	63%	・協議会の部会についての情報など、資料を職員間で閲覧できるようにしたり周知しています。	・事業所側から、協議会への参加に積極的になれるようアプローチしていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・送迎の時保護者と児童のその日の様子を伝えあっている。 ・送迎時に施設での様子を伝え、気になることを聞いたり、電話で様子をうかがっている。	・半年に1度のモニタリングだけでなく、送迎時などご家族とのやりとりを大切にしていきます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	50%	50%	・保護者の様子を窺い、レスパイトケアを行っている。	・事業所内での研修開催時にご家族の参加を促すなど、ペアレント・トレーニングとなる機会をつくっていきます。	
関係機関や保護者との連携	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	88%	13%	・契約時だけでなく、その都度説明をさせて頂いています。	・定期的にご不明な点がないかなど、事業所からアプローチしていきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	88%	13%	・ガイドラインをもとに、支援内容の構築を行い、支援計画作成後は毎回、ご本人、ご家族の署名、捺印にて同意を頂いております。	・計画書の説明の際は、相違がないよう丁寧に説明していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%	・子育て経験のある職員への相談や相談しやすい環境を作っている。	適切な助言ができるように、職員一同専門性を高めて参ります。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	75%	・コロナ禍で集まる機会がなかった。	・保護者会を開き、悩みや気になることを相談し合える機会をつくる。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	88%	13%	・その日、又は次の日の朝に起きたことを職員内で話し合い、対応を統一するようにしている。	・申し入れがあった場合、迅速かつ適切に対応して参ります。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	63%	38%	・月に活動表を配布し、Instagramにてその様子を発信している。	・行事予定や活動概要など、引き続き、書面でも周知していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	・写真などは活用したら、必ず消去している。名前のついているプリント等は細かく消去している。	・全従業員に対して、定期的に個人情報の取り扱いについての注意を促します。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・あらかじめ要望を聴き、職員間で共有している。	・お子さんと、ご家族の関係性のフォローも行えるように、引き続き専門性を高めて参ります。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%	・コロナ禍で実施できず。 ・コロナから事業所の行事が開催されていない。今年開催予定なので、Instagram等を活用し、発信していく。	・地域交流スペースを運用し、地域との繋がりを日常化できるようにします。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	63%	38%	・教務継続計画を策定しております。	・マニュアルの見直し、改善を年間の予定に組み込み、定期的に業務継続計画の改善をおこなっていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・活動予定にも訓練を入れ、実施する。	・業務継続計画に添い、適切な訓練を行ってまいります。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	88%	13%	・全員の情報を個々にファイリングし保管している。	・情報の再確認を定期的に行い、全従業員で共有します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	13%	・アレルギー欄を作っているが、医師指示が不明。	・初期調査だけでなく、日々アレルギー反応がないか、お子さんの様子、状況の変化を見逃さないようにします。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	88%	13%	・月に1回会議を行い、ヒヤリハット報告を行っている。	・コロナ渦や職員体制の変化などもあり、検討会の開催が不定期となってしまっている為、早急に体制を立て直し、事業所全体で事例の検討、共有をしていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	・虐待防止委員会設置のもと、虐待に繋がりが得る対応を職員間で共有し認識を高めております。	・事業所だけでなく、第三者の意見なども取り入れ、事業所の風通しを良くしていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	75%	25%	・該当する利用者が居ない。受け入れる場合、契約時に説明をし、理解して頂く。	・安全の為の身体拘束であっても、記録は必ず残し、必要性の判断も事業所だけ行わず、主治医など第三者の意見を取り入れます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。